

第2回ワールドカフェ 開催要領

1 第1回ワールドカフェのおさらい

「まちづくり短歌」づくりを通じて次期総合計画への施策提案を行う第1回ワールドカフェを、平成28年12月1日19時～21時に町民センターで開催しました。

趣旨説明のあと、班ごとの自由討議、三度の席替え、清書の工程を経て、班ごとにこの日作った「まちづくり短歌」を披露しました。総合計画策定審議会委員に役場若手職員を加えた総勢36人の参加者が5班に分かれ、日頃のまちづくりへの想いを熱く語り合いました。



できあがった歌の数々（順不同）

うまいもん
雄武に沢山
あるけれど
食べれる場所
は
答えられず

地産地消の飲食店の脆弱さを地産地消イベント「うまいものまつり」を囑託して表現。

広大な
土地活用の
まちづくり
産業おこし
明るい未来

広大な町土の有効活用こそがこの町の基本であることを改めて町民に提起する歌。

うみきれい
ちようきれい
むろんだよ
うみといえ
ば
おうむちよう

「海の魅力で直球勝負」した歌。節の頭を雄武町と横読みさせる技巧的な歌でもある。

はまなすの
咲く町おうむ
かがやくよ
日の出と子ども
未来につなぐ

町花はまなすと、日の出、子どもを採り上げ、明るい未来への希望を表現した歌。

鮭のよう
戻りたく
なる
街作り

一度転出しても、リターンを希求する人が増えるまちづくりへの意志を表現した歌。

旨いもの
たくさんあるぞ
あちこちに
いかしていこう
勿体ない

雄武産農水産物がまちづくりに十分生かされていないと問題提起する歌。

さけサーモン
ほたて
サンジャック
外国人にも
おいしい
雄武の自慢

雄武産海産物の輸出拡大と外国人観光客の雄武産料理の飲食機会拡大をめざす歌。

サンジャック
雄武民だけ
知っている
お味はいかが？
ジェントルマン

極上の雄武産ほたてで欧州の食通たちをうならせたいというメッセージ。

道の駅
もっと
にぎわい
あればいい！

道の駅おうむに対する町民の想いをストレートに表現した歌。

外国人よ！
おフランスでは
サンジャック
どんと来い来い

ホタテ貝

ほたてがイエスの使徒ヤコブの象徴である故事を外国人観光に生かそうと提起する歌。

日の出岬で
温泉入って
サンジャック

雄武観光の勝負どころを短く明快に表現し、キャッチコピーとしても秀逸な歌。

雄武人
熱い思いを
持ち続け
自身を
持つとう
サンジャックに

地味な印象があるほたてをこれからのまちづくりの主力にしていこうと主張する歌。

雄宝と
モガニホタテに
アンガス牛
どれも美味しい
名物です

従来の3大名物にアンガス牛を加えた今の雄武産業の方向を改めて定義した歌。

露天風呂
日の出見ながら
見る海に
コンブ漁師の
光る汗かな

大海原のマクロと朝陽で汗が光るミクロを対比させ、雄武の自然と産業をファンタジックに表現した歌。

サンジャック
日の出岬は
サンライズ
町民あげて
売りこもう！

ほたてがイエスの使徒ヤコブの象徴である故事を欧州輸出に生かそうと提起する歌。

スボセンの
施設の整備を
願いつつ
雄武の元氣
この場所から

町民の健康づくりに重要なスポーツセンターの施設整備への想いを歌ったもの。

雄宝に
アキアジ
・メジカ
同じ意味
一つの言葉も
見方次第

サケの様々な名前をとりあげること、サケとこの町との深いつきあいを表現した歌。

温泉は
日の出岬が
一番だ
ほかの町には
負けないぞ！

温泉をまちづくりの売りにしていこうという強いメッセージをこめた歌。

昔から
人情あふれる街
自然の
恵みに感謝
食べ物うまい

人情深く、自然に感謝しながら暮らしている住民の気持ちをストレートに表現した歌。

夜明け前
暗闇照らす
ラ・ルーナが
毛蟹漁船の
道筋示す

夜のラ・ルーナ、夜の毛蟹漁といった人々に知られていない雄武のもう一つの姿を題材に自然と産業を表現した歌。

住みやすい
さいはてなれど
いいところ
雄武の町は
ゴジラのあたま

ゴジラの姿に似た網走総合振興局境界の最北という「最果て」でありながら住みよい町であることを表現した歌。

ゴジラの
頭の中身は
ぎっしり
詰まった
大自然

「最果て」ゆえの大自然を歌った一首。「ぎっしり詰まる」はカニの身を連想させる。

ゴジラの頭
中に詰まった
大自然
海・山・川・原
サンジャック

「最果て」ゆえの大自然を歌った一首。ほたてで産業とのつながりも表現している。

雄武町
離れてわかる
あたたかさ
戻ると美味しい
サンジャック

町外居住経験者が、人情と食を例に、ふるさとの魅力を表現した歌。

産めよ
増やせよ
戦時中
産みたい産もう
これから

子どもが産みたくなるまちづくりが重要というメッセージをこめた歌。

澄んだ空
海からのぼる
初日の出
年のはじめは
北国雄武

日の出岬から初日の出が見れる雄武のぜいたくを人々に味わってほしいと提起する歌。

鮭ホタテ
毛ガニ
マス
イカ
カレイ
どれも美味しいぞ
雄武町

3大名物を筆頭に語呂よく魚を7種採り上げ、漁業の豊かさを表現した歌。

初夏思つ
カッコウ鳴く声
山々に
未来に残せよ
永遠に

幼少の頃に五感で感じた大自然を未来に継承していききたいという想いを表現した歌

2 第2回ワールドカフェの予定

第1回ワールドカフェでは、皆様から、雄武の雄大な自然とその恵みを得た産業をテーマとした「まちづくり短歌」を多くいただきました。「まち」は町民全員の集合体であり、「集合体としての想い」はよく表現していただけていると思います。

その反面、いわゆる短歌によくみられる、日常生活の喜怒哀楽の感情や、家族や友人、恋人への想い、将来の自分の夢などを歌った歌があまりありませんでした。

そこで、第2回ワールドカフェでは、お一人お一人が、自分自身の日々の生活で感じたことなどを題材に短歌を作っていただこうと思います。

歌のイメージ

ルールでは
野花摘んでは
だめだけど
今日は特別
思い出の日

記念日の花を野花で調達できるほど自然に恵まれた生活を表現した歌。

ママ達も
たまには息抜き
したいから
みんなで創ろう
コミュニティ
カフェ

コミュニティカフェがあったらいいな、みんなで創ろう呼びかける歌。

春が来て
息子が札幌
進学し
入学式で
涙こぼれる

離れ離れになる寂しさや、進学のうれしさなど、複雑な気持ちから涙が出たことを表現した歌。